



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

2007年度定時総会開催

2007年度の定時総会は5月20日（日）午後2時から、横浜桜木町駅近くのビヤール・レストラン「驛の食卓」にて21名の会員が出席して開催されました。

開会に先立ち、下山会長より協会の組織と活動の充実と、会員相互の親睦を深めていくよう会員の皆様のご協力とご支援をお願いする旨の挨拶がありました。山崎事務局長より、総会の議題と進行についての説明の後、規約第10条2項に則り、会長を議長に指名して、「2007年度定時総会議案書」に基づいて審議に入りました。

「2006年度事業報告について」は、飯塚副会長が年間の主たる事業の経過を報告、「2006年度一般会計決算報告」は、齋藤副会長より報告があり、「監査報告」は監事を代表して井口監事より報告が行われました。

続いて「2007年度事業計画（案）について」は飯塚副会長より、「2007年度一般会計予算（案）」は齋藤副会長より説明が行われ全員の賛同を得て、総ての議案が可決されました。

最後に飯塚副会長から「監事の辞任及び後任についての報告」がありました。監事の小田泰治氏より健康上の理由で辞任したいとの申し出があり、役員審議委員会にて検討の結果、小田監事の在任期間の後任監事として、三崎甫氏を選出し、ご本人の承諾を得た後、理事会において承認された旨の報告がありました。

定時総会は午後3時に終了し、引き続き懇親会に移り歓談の後、午後4時半に閉会しました。



▲総会に先立ち挨拶する会長

スペイン大使夫人との押し花交流

7月3日午後2時より、カリエド駐日スペイン大使夫人とご一緒に、押し花絵を制作するという機会に恵まれました。参加者は下山会長、胡口先生、押し花絵グループの生徒3名です。私達は必要な道具とこれまでに作った押し花絵を数点携えて、夫人を公邸にお訪ねいたしました。

夫人は沢山の押し花の中から、クリスマス・ローズを、そして、アクセント・カラーとして、うす紫色の小花を選ばれ、ためらうことなく、クリーム色とうすい緑色が交叉する和紙の上にならべていかれました。

まるで以前から押し花絵の作り方をご存知のように、楽しそうに、しかも短時間で一点仕上げられました。最後に、小さな、どくだみの花を数枚、絵の上にそっとのせられたので、私は、思わず「この花をご存知ですか?」と伺いました。「いやなにおいのする花でしょ。皆この花はきれいなね」とほほえまれた時、私は夫人が本当に花を愛する方なのだと実感しました。

ご自分の作品にとっても満足され、大使や友達に見せたいとおっしゃっていました。その後、準備をしてくださった、美味しいおつまみをいただきながら、あれこれ話に花が咲き、楽しい午後をすごすことができました。(高柳治子)



▲大使夫人を囲んで

***** スペイン・サロンへのお誘い *****

新しく会員になられた方々とその推薦者の方々も、ぜひスペイン・サロンにご出席されますようお願いいたします。

●2007年10月のスペイン・サロン

2007年3月のスペイン・サロンで「スペイン・ゴシックの大聖堂」と題してお話を伺った小倉康之先生に、今回はスペインのロマネスク建築についてのお話をさせていただく予定です。どうぞお楽しみに。

日 時：2007年10月20日（土）13：30～15：30

場 所：県民サポートセンター 4階／405号室

講 師：小倉康之 横浜美術短期大学・早稲田大学エクステンションセンター講師

テーマ：「スペインのロマネスク建築について」

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

●2007年11月のスペイン・サロン

皆さんはパエジャをどのように作りますか。それぞれのレシピを持ち寄り、みんなでパエジャを作って楽しく食べる会を催したいと思います。ご自慢の腕を振りたい方、食べるほうに参加したい方、どなたでも参加できますが、人数確認のために申し込みが必要となります。申し込み方法や費用など詳しくは、追ってホームページ、チラシ等でお知らせします。

＜パエジャを作って食べる会＞

日 時：2007年11月17日（土）13：00～17：00

場 所：神奈川地区センター（JR東神奈川駅、京急仲木戸駅 徒歩6分）予定

☎参加希望・問合せは下記スペイン・サロン担当者まで。

歴史と文化を知るスペイン・サロン

●4月のスペイン・サロン

「アルプハラ地方～アル・アンダルス最後の落ち人の郷」

講 師：山田るり子 会員

日 時：2007年4月21日（土）12：15～14：30

会 場：県民サポートセンター4階／403号室

当協会会員で「女ドン・キホーテ スペインをゆけ！」の著者である山田るり子さんから、スペインでホームステイをしていた頃から何度も訪れ、思い入れの深いアンダルシア・アルプハラ地方のお話を伺いました。「アルプハラってどこにあるの？」と知らないスペイン人もいるというアンダルシアの秘境は、シエラ・ネバダ山脈の南斜面、地中海側に拓けた地帯で、グラナダ県とアルメリア県にまたがる地方です。1492年グラナダが陥落し、アルハンブラ宮殿を追われたナスル朝最後の王・ボアブディルが都落ちしたのがアルプハラでした。しばらくして彼はここも追われ、多くの家臣を残しモロッコに落ち延びて行きましたが、アルプハラに留まったイスラム教徒達は「モリスコ」（キリスト教に改宗した者）として細々と生活を続けながら、この辺境の地に灌漑や野菜・果樹栽培など多くのイスラムの技術や影響を残しています。



▲講師の話で、アルプハラに想いを馳せる

この辺りはシエラ・ネバダの雪解け水による豊富な水資源があり、飲料水の銘柄でも知られる村ランハロンがあります。昔から水力発電も盛んな地域ですが、停電や断水もよくあるとのこと。ベルチェレス村では十数年前の大晦日に停電が起り、折角集まった家族でのお祝いが台無しになってがっかりした村人達が、次のバカンスの8月の暑いなか、飲めや歌えのクリスマスモードのお祝いをやり直しました。これが“*Noche Vieja en Agosto* (8月の大晦日)”として「村おこし」のイベントに発展し、今では世界中から観光客が訪れる「祭り」となったという面白い話もあります。

スペイン一標高の高いトレベス村は、スペイン三大生ハムの産地の一つとして有名です。生ハムの話では、参加者の関心も高く盛り上がり、ベジョータ、イベリコ、ハモン・セラーノの違いの説明に皆、目からうろこでした。

郷土料理の話では、とくに皆の興味を引いたのがパタタス・ア・ロ・ポブレ（じゃがいもの貧乏風）で、レシピも教えて頂きました。ジャガイモ、ピーマン、たまねぎ、ニンニクをくずれるまで炒め煮したもので、聞いただけで素朴で美味しそうな田舎料理です。

アルプハラは山岳地の特徴ある白い村落や家屋の造りなど景観もとても魅力的な地方ですが、これら小さな村々は失業率40%で人口流出も激しく、ご多分にもれず過疎化とか。しかし、グラナダからバスで3~4時間かけても、いつか行ってみたいなど、懐かしさをおぼえる古き良きスペインの田舎に思いを馳せながら、素敵な時間を満喫した1日でした。(寺原瑛子)

●6月のスペイン・サロン

「スペイン文学」～スペイン中世文学の芳醇な香り

講師：岩根罔和 神奈川大学スペイン語学科教授

日時：2007年6月16日（土）13：30～15：30

会場：県民サポートセンター15階/1501号室

スペイン文学というと、すぐ「ドン・キホーテ」を思い出すでしょうが、今回は別のお話です。711年～1492年のイスラム支配下のスペインは、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教が共存して、豊かで独特な文化が栄えた時代でした。古典アラビア語で書かれた9世紀の詩の最後の2行ハルチャ（*Jarcha*）がロマンス語であることが発見されて、読み解かれたのがスペイン語で書かれた一番古い文学とされますが、いわゆる形をもった上での文学としては、12世紀の4,000行にも及ぶ武勲詩「エル・シド（*El Cid*）」が一番古いと言えます。これは、吟遊詩人が詩を暗誦して村々を語って歩く口承文学（*Mester de juglaría*）で、レコンキスタの戦いに明け暮れるアルフォンソVI世の時代の、ブルゴスの英雄ロドリゴの手柄話です。

さて賢王アルフォンソX世の時代、王がトレドに翻訳所を設けて、当時最高の文化水準にあったイスラムのアラビア語の文献をラテン語に翻訳させたことは偉大な功績でした。その頃のキリスト教圏では古典ギリシャ語が読めなかったのですが、こうしてイスラムを通じてギリシャ・ローマ文化を知り学ぶようになり、のちにルネッサンスへの大きな発展に繋がったのです。そんな中で、カステージャ語で書かれた文学も生まれてきました。

特筆すべきは、首席司祭ファン・ルイスの筆とされる「よき愛の書（*El libro de Buen Amor*）」です。自伝的恋物語あり、寓話やイソップ物語もあり、善行は神が強制するのではなく人間の意志で行うのだとする自由意志論や神の救済についてなど、いろいろな内容を盛り込んだ教訓ものの傑作です。

さて、「ドン・キホーテ」と並び称され、スペイン文学の金字塔として語られねばならない作品として「ラ・セレスティーナ（*La Celestina*）」が紹介されました。作者はフェルナンド・デ・ロハス、初版本（原題 *Comedia de Calisto y Melibea*）は1499年発行で、対話体で書かれた16幕ものです。あらすじは、若い貴族カリストが鷹を追っていて出会った高貴な娘メリベアに一目惚れをし、いかがわしい婆さんのセレスティーナに2人の仲を取り持ってもらいます。欲深な婆さんは、カリストの召使いパロメノが紹介料を要求するのを断り殺さ



▲ユーモアたっぷりに語る岩根先生

れ、カリストはメリベアとの密会の最中、庭の塀の上から落ちて死に、悲しんだメリベアは塔の上から身を投げて死にます。登場人物のそれぞれの個性がとても面白そうですが、ほとんど全員が死んでしまうめずらしい展開の話です。当時、高い所から落ちて死ぬのは、地獄に落ちることを意味していたとのこと。

岩根先生のいつものユーモア溢れる話術に魅せられながら、中世スペインでの三つの宗教が共存する豊かな文化のなか、他の国を寄せつけない何か独特な魅力のある文学の世界を学び、その文学の香りをほんのり感じてなんだか嬉しくなった一日でした。今回紹介のあった本「エル・シンド」「よき愛の書」「ラ・セレスティーナ」は、すべて日本語に翻訳されていて、「スペイン中世・黄金世紀文学選集（全7巻）」（国書刊行会）に入っていますので、どうぞ一度お読みください。（寺原瑛子）

●7月のスペイン・サロン

「フリートークのスペイン・サロン」

日 時：2007年7月21日（土）13：30～15：30

会 場：県民サポートセンター15階／1501号室

今回のスペイン・サロンはいつものように講師を招いて講演していただく形ではなく、参加者それぞれが知っていたり、聞いたりしたスペインに関する情報をこのサロンの場で気軽に披露し合っ、更に自分の知らなかったスペインについてのミニ知識を増やしてもらおうという趣旨でフリートークと言う形でのスペイン・サロンを実施しました。

まず、最初の話題は現在上映中のボルベール＜帰郷＞（監督・脚本：ペドロ・アルモドバル、主演：ペネロペ・クルス）についてで

した。今回の参加者16名の中でこの映画を既に見た人を聞いたところ、5名が映画館に足を運んでおり関心の高さが伺われました。見た人の意見は多様で、脚本があまりよくなかったと言う人もいれば、背景がカラフルでいかにもスペインらしく良かったという人もいましたが、総じて内容を高く評価する人がいなかったのは面白く思いました。

また、参加者の中にスペインで空手を教えていた人がいて、その人の経験談でなぜスペインで空手が普及しているかということ、日本の武士道とヨーロッパの騎士道の精神で相通ずるものがあるからだと言っていました。日本では既に死語に近い武士道の精神がスペインの地では、まだ脈々と受け継がれて空手や合気道がもてはやされている現実にはちょっとびっくりしました。そうは言っても、スペイン人は勝ち負けにこだわり、武士道の精神はどちらかと言うと二の次であるという話には笑ってしまいました。

また、会員の寺原瑛子さんが今年5月にスペインに行っており、マドリードのサン・イシドロ祭やグラナダのアルハンブラ宮殿の夜の美しさやコルドバの個人邸宅のパティオの美しさを競う祭り等、撮ってきた写真や祭りのパンフレット等を回覧しながらの話、スペインの魅力を再確認した参加者も多かったのではないのでしょうか。

また、廣瀬理事より語学教室「アマポーラ」の3人の生徒による音楽の集いが7月30日（月）に大倉山記念館で行われる旨、発言がありました。更に、横浜スペイン協会としてフラメンコ教室を立ち上げたいという構想も披露されましたが、現在場所等について調査中であるということでした。

その他にも色々な話題が飛び交い、参加者16名の方には満足していただけたと思っています。更に、スペイン・サロンでは10月20日（土）に前に一度講演をお願いした小倉先生にロマネスク建築についてお話をさせていただく予定です。また、11月17日（土）には地区センターを利用してパエジャを作って試食するという予定もしています。パエジャ好きの方は是非今から楽しみにしてください。今後とも色々な企画を立てて、新しい会員の方々にも気楽に参加して頂けるサロンにしていきたいと考えています。

会員の方で良い企画がありましたら是非スペイン・サロン担当委員までご提案いただければ幸いです。

（石井加奈弘）



▲スペインの話題で会話が弾みました



絵画教室 アンダルシア地方スケッチ旅行



絵画教室では去る2006年10月16日から30日までの15日間、アンダルシア地方スケッチ旅行を開催しました。前回47号に続き、記録をお届けします。

会員投稿

アンダルシア地方スケッチ旅行 15 日間 (その2)

飯塚 劭

2006年10月19日 (木)

午前8時

朝食。今日はアルコス・デ・ラ・フロンテーラで終日フリータイムです。みなさんは町を自由に散策したり、スケッチをしたりして楽しみました。

町を散策中に突然雨に降られましたが、雨宿りに飛び込んだ建物が、町の文化センターのようなところで、いろいろな催し物のお知らせがあり、その中には絵画教室や音楽教室などのお知らせもあり、スペインの田舎町の人々の余暇生活をかいま見た気がしました。

この町はかなり有名ですので、詳細はガイドブックなどをご覧ください。

午後8時30分

ホテルでの夕食時、トゥナが入り楽しい夕食となりました。トゥナの一行は私たちを見つけると、サービスのつもりなのでしょう、日本の歌を数曲歌ってくれました。もちろん後では、彼らのCDの販売です。



▲アルコス・デ・ラ・フロンテーラの路地

2006年10月20日 (金)

午前8時

朝食。チェックアウト。

午前9時

ホテル出発。あいにく雨です。アンダルシアにはめずらしく、かなりしつこい雨でした。

ペペの運転するバスは今日の目的地に向かって、雨の山中を進みます。

午前9時40分

アルガール到着。この町は、白い村を売り物とした観光地として生まれ変わるべく、町中で工事の真っ最中でした。通りにしゃれた街灯を設置したり、道をきれいに舗装したり、家々の壁を補修したりと大変です。数年後この町を訪れる機会があれば、その変容にきっと驚かされるでしょう。



▲アルガールの町

雨の中を町中歩き回り、スケッチのポイントを探しては写真を撮りました。

午前11時

アルガール出発。雨がひどくなる中を、バスはさらに山中深く進みます。ウインドウガラスが曇って、車窓からの風景がよく見えないほどです。それでもみなさんは、そんな曇ったガラスを拭き拭き車窓の風景を眺めます。

午後1時30分

グラサマーレ到着。雨にけむる中にパッと姿を現したその美しい町にバスの中から全員が思わず「わあー！」と歓声をあげました。町の中央にあるかわいらしい広場でバスを降り、ここからスケッチのポイント探しの散策です。

中央の広場近くはかなり立派な三つ星のホテルがありましたが、すでにシーズンオフということで、レストランは営業していませんでした。

この町は、年間を通じて一時に降る雨の量は、スペイン北部より多いとかで、家々の屋根には立派な樋がありました。その雨のおかげでしょうか、町の裏手にある展望台から見る眺めは、とても南スペインの風景とは思えないような緑豊かな光景です。アンダルシアにもこのようなところがあるのです。改めてスペインという国の大地の大きさに、感激しました。



▲アンダルシアとは思えないグラサマーレ町からの眺め

大雨の中での散策では、スケッチや写真をゆっくり撮るといったことができませんでした。しかし島津画伯はこの町が大いに気に入ったようで、改めてお天気の良い時に訪問したいと何度も口にしていました。

午後3時

グラサマーレ出発。降り続く雨の中を、ベースキャンプであるトレモリーノスのホテル・ラ・ルナ・ブランカに向かって帰路の旅を急ぎました。山を降りるにしたがい、雨があがってきました。そしてバスが海岸線に出るころにはもう雨はすっかり止んでいました。どうやら低い雲が山を被い、山中にある町はその雲の中にあっただようです。

午後6時

ホテル・ラ・ルナ・ブランカ到着。

午後8時

夕食はホテルの好意で和食です。旅先では当然のことながらスペイン料理ばかりで、いささか胃に負担を感じていた高齢者には、嬉しい心使いの夕食でした。(つづく)

特別投稿

カラカスからの便り

*3月まで駐日スペイン大使館にお勤めで、当協会では大変お世話になった小原京子さんが退職されてベネズエラへ行かれました。その小原さんから、横浜スペイン協会の会員の皆さん宛にお便りをいただきました。ここにご紹介させていただきます。

小原 京子

横浜スペイン協会の皆様こんにちは。

スペイン大使館に勤務中は、大変お世話になりありがとうございました。

23年間勤めた大使館を退職し、4月17日、カラカスに移り住んで来ました。これから2~3年いる予定です。横浜スペイン協会から寄贈され、大使館の庭に植樹された横浜緋桜が今年もきれいに咲き、離日直前にお花見ができたのはよい思い出になりました。

楽しく打ち込んできた仕事もやめたし、子育ても一段落したし、家事は通いでやって来るコロンビア人のメイドさんがやるしで、ここでの私の毎日は、「今日は何をして過ごそう?」と自問自答から始まります。

カラカスは、強盗やひったくりなど治安がとても悪いので、ぶらぶらと街を歩くことはできません。ここにおいて仕事をしていない人たちは、ジムに行くか、ゴルフをするか、映画を観るか、スペイン語の勉強をするか、友達とお茶か食事などで過ごしているようです。政府による食料品の供給&価格統制のため、お肉やお魚、卵、牛乳、オリーブオイル、ビールなど基本的な食料品がお店のショーケースから姿を消すこともしばしばで、食料品調達のため、スーパーのはしごもよくやります。

スペイン大使館が主催するイベントの他、毎週のようにどこかの国のナショナルデイのパーティに出かけます。ほとんどの場合、私が唯一のアジア人なので、皆さんから¡Hola Kyoko!と声をかけられるのですが、あちらにとっては私ひとりでも、私にとっては何百人の新しい知り合い。既に会った人に「初めまして」と挨拶する失敗をしないように、「Encantada」は封印しました。先日は、アメリカの独立記念日のお祝いに出かけました。7月4日がアメリカの独立記念日、7月5日がベネズエラの独立記念日。今、ベネズエラでは、反政府系のテレビ局が閉局に追い込まれ、学生を中心に「表現の自由」を求めてデモ活動を展開しています。そんななか、アメリカ大使が、「4日から5日に変わるその瞬間、両国は一緒に、自由 (Libertad) の精神を一

緒にお祝いするのです」と、毒の効いたスピーチをし、さすが大国、表面的な外交辞令ではない、はっきりとしたメッセージをこめたスピーチをしかもユーモラスになさるものだと感心しました。

毎週火曜日は、スペイン領事館の女性たちと、我が家でサルサ&メレンゲのレッスンを受けています。10回くらいレッスンしたところで先日、嬉々として踊りに出かけました。しかし……、やっぱりサルサとともに生まれ育った人たちの踊りはすごかった。ひとりひとり個性溢れるセクシーな踊りで本当に目の保養になりました。私のダンスフロアデビューはまだ当分先のことになりそうです。

日曜日は、早起きして、アピラ山登山に出かけます。カラケーニョ（カラカスっ子）の週末のレクリエーションとして人気で、何百人、何千人の人たちが、スポーツウェアに身をかため、家族で、カップルで、友達同士でおしゃべりし、眼下にカラカスの街を眺めながら、1時間から2時間くらいの森林浴登山を楽しみます。たまに日本人みたいな人を見かけると声をかけてみようかなと思いますが、まだ勇気がでません。

日本から離れてみると、かえって日本のことに興味がわき、歴史や美術の本を読んだり、NHKのテレビ放送番組も日本にいる時より見えています。日本大使館の方に誘われて、生け花&日本の家庭料理を楽しむ会にも出かけました。写真はその時のものです。

日本から頼まれる翻訳やエッセイなども時々やっています。ラテンアメリカの現代文学の面白い本を見つけて、日本語に翻訳することにも挑戦してみようと思っています。50歳にして与えられた自分のための贅沢な時間、人生を見つめなおしつつ、ゼロからまた何かを積み上げていきたいと思っています。地球の反対側ですが、これからもよろしくお願いします。

ベネズエラ、カラカスにて
小原 京子



▲生け花&日本の家庭料理を楽しむ会で、参加のみなさんと

10月より新しいスペイン語講座開講

今年10月から、横浜スペイン協会主宰のスペイン語講座に、新しい入門講座を開設します。

協会がスペイン語講座を開設して早15年が経ちました。その間、多くの会員および一般の方々が長い間受講されて大変好評でした。片や、初めてスペイン語を学びたい方のご要望も多く、この10月から、初めて、あるいはもう一度最初からスペイン語を学び直したい方のための入門講座を下記の通り開講します。

〈入門講座〉日 時：毎月第1・2・3水曜日 13:15～14:45 (90分) 学習期間：2年
会 場：県民サポートセンター7階（横浜駅西口）
講 師：日本語の達人なラケル先生

また入門コースの次の講座として、接続法を中心とした初級講座も同じ場所で下記の日時、講師で開講します。接続法を学ぶことによって会話はもちろん、文章を読む・書く上で豊かな表現法を理習得し、応用することが出来ます。

〈初級講座〉日 時：毎月第1・2・3水曜日 10:30～12:00 (90分) 学習期間：2年
講 師：橘川先生

受講料は1回につき1,500円、6ヶ月分（18回）前納で27,000円、それに2,000円の事務費が加算され（会員は免除）、合計29,000円です。今回の募集は各クラス10名です。応募者多数の場合は、会員優先で、抽選になります。

☎お問い合わせ、申込みは下記スペイン語教室委員まで。

e-mail : l-spain@yokohama-spain.org

♪♪コンサートのお誘い♪♪

テーマは“Jazz, Modern vs Gipsy”

協会主催のスペイン音楽会を下記のように開催します。楽しいコンサートです。お早めにお申込み下さい。

日 時：2007年10月25日（木）19：00開演（18：30開場）

場 所：かなっくホール（JR東神奈川駅・京急仲木戸駅連絡通路際）東急東横線東白楽より徒歩10分

入場料：3,000円（会員は2,700円）

出 演：岩崎良子（ピアノー当協会会員）、高木潤一（フラメンコ・ギター）、小又弘昌（サクソ）、
山村隆一（コントラバス）、磯見博（ドラムス）、横前恭子（ヴォーカル）

☎問合せ、チケット申込先：FAXで、お名前、枚数、連絡先を明記し下記にお申込み下さい。

この音楽会は会員ばかりでなく広く一般の方にもスペイン音楽に親しんでいただき、また会員の親睦を図ることも目的としています。

演奏曲も皆さんがご存知のアメリカのポップスからモダンジャズ、ラテンなどお馴染みの曲を数多く取り入れ、それをスペイン風に味付けをした、楽しくも、迫力のある緊張感をお届けいたします。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、多数の会員のご来場をお待ちしています。

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

<編集後記> 10月25日に協会主催のコンサートが開催されます。今回は従来とは変わってスペイン音楽にこだわらず、一般の方にも親しみやすい内容となりました。気軽な気持ちで参加することができ、特に多くの方に協会の活動を知っていただくには絶好の機会ではないでしょうか。会員のみならず一般の方もお誘いいただき、コンサートを盛り上げたいと思います。よろしくご協力お願いします。（鈴木生雄）

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先 横浜市戸塚区
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は
11月10日(土)です。
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。